

令和7年度

健康増進法に基づくがん検診の対象人口率等調査
報告書
(概要版)



東京都保健医療局

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 都民のうち区市町村が実施するがん検診の対象となる者の割合を区部・市町村部（島しょ部を除く。）ごとに対象人口率として算出し、令和8年度以降の「東京都がん検診精度管理評価事業」での受診率の算出に当対象人口率を用いる。
- (2) 都民の胃・大腸・肺・乳・子宮頸がん検診の受診率を把握し、「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」（令和6年3月）における「がん検診受診率 60%」の目標達成状況を評価する。
- (3) 都民のがん検診の受診状況を性・年代別等に集計・分析し、実態を把握することで、都のがん検診普及啓発事業の効果検証の一助とし、今後のがん検診の受診率向上等に向け、効果的な施策展開のための資料とする。

2 調査項目

- (1) がん検診の受診の有無、受診機会及び検査方法について
- (2) がん検診において「要精密検査」と判定された場合の精密検査受診状況について
- (3) がん検診を受診しなかった場合の未受診理由について

3 調査設計

- (1) 調査対象 令和7年3月31日現在において、都全域（島しょを除く。）に住所がある満20歳以上の女性及び満40歳以上の男性
- (2) 標本数 18,000人
- (3) 標本抽出方法 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送による配布、郵送又はインターネットによる回収
- (5) 調査期間 令和7年12月1日から同年12月19日まで
- (6) 調査実施委託機関 株式会社シード・プランニング

4 回収結果

有効回収数 6,231票（有効回収率：34.6%）

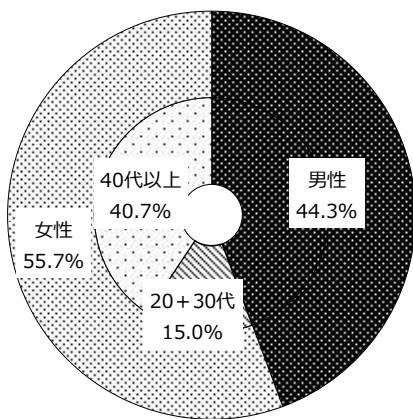
II 調査結果

第1章 調査結果

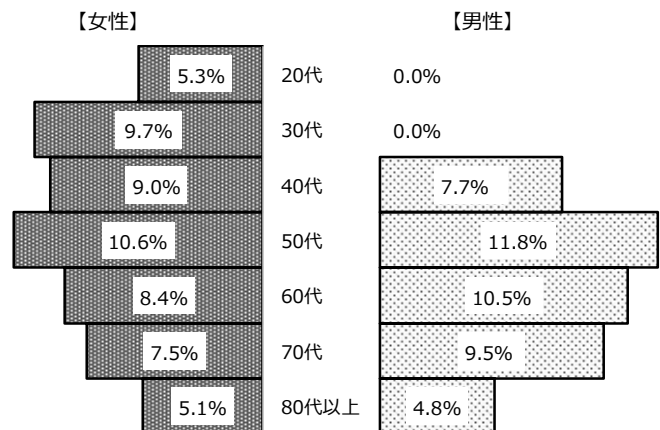
第1 回答者の属性

- ◎ 回答者の性別は、「男性」が44.3%、「女性」が55.7%となっている。40代以上に限定すると、「女性」は40.7%である。
- ◎ 回答者の年代は、「50代」が最も高く22.4%、次いで「60代」が18.9%、「70代」が17.0%となっている。
- ◎ 回答者の職業は、『有職者・計』が65.9%、『無職者・計』が31.9%となっており、「正規の会社員・職員」が最も高く39.6%、次いで「無職」が19.7%、「パート・アルバイト」が12.7%、「専業主婦・主夫」が11.4%となっている。

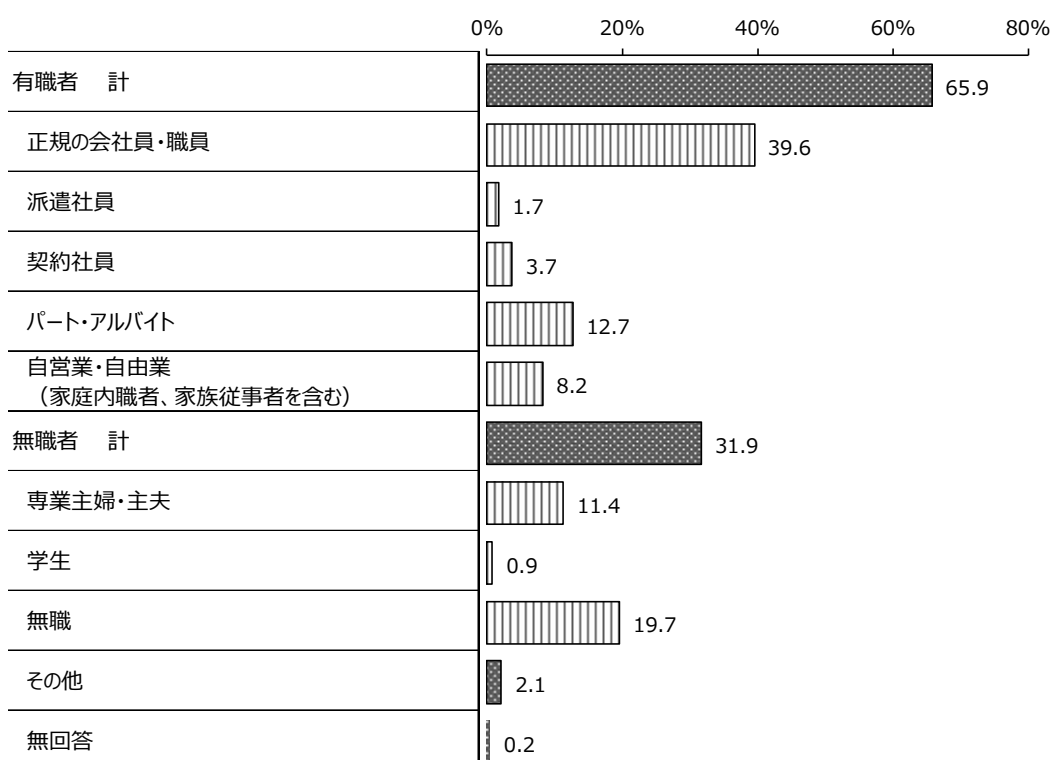
【性別】 n=6,231



【年代】 n=6,231



【職業】 n=6,231



第2 がん検診の受診状況

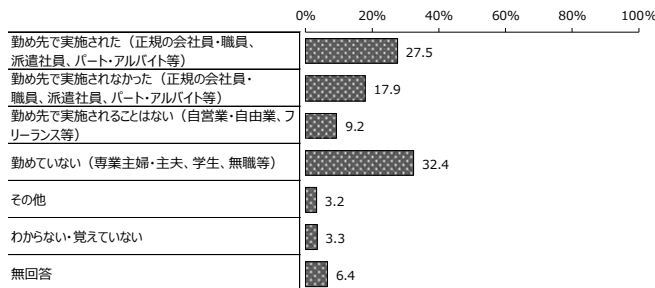
1 胃がん検診

集計対象：50歳以上の男女

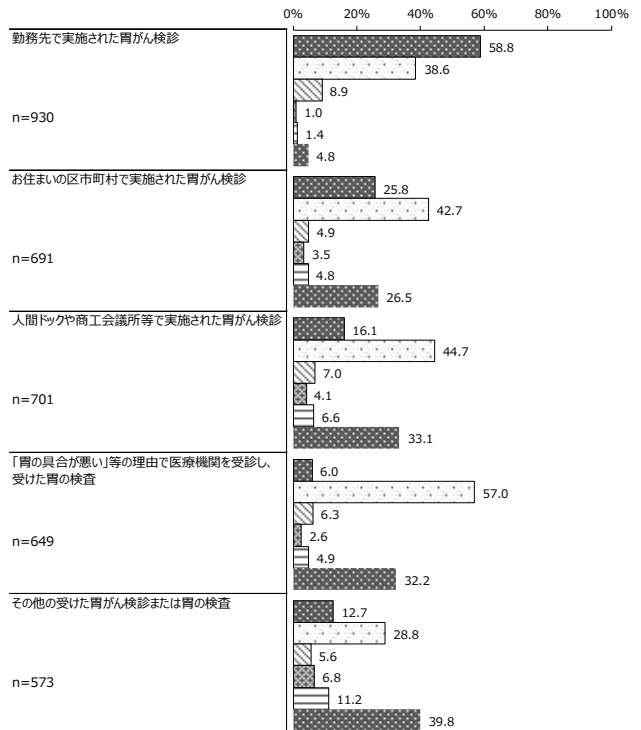
- ◎ 勤務先で胃がん検診が実施された者の割合は、全体の27.5%となっている。勤務先で胃がん検診が実施された場合、勤務先での胃がん検診の受診経験があるのは、79.4%となっている。勤務先での胃がん検診の検査方法は、「胃部エックス線検査」が58.8%、次いで「胃内視鏡検査」が38.6%となっている。
- ◎ 居住する区市町村が実施する胃がん検診の受診経験があるのは、16.2%となっている。胃がん検診の検査方法は「胃内視鏡検査」が42.7%、次いで「胃部エックス線検査」が25.8%となっている。
- ◎ 個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する胃がん検診の受診経験があるのは、16.5%となっている。胃がん検診の検査方法は「胃内視鏡検査」が44.7%、次いで「胃部エックス線検査」が16.1%となっている。
- ◎ 「胃の具合が悪い」等の理由で医療機関を受診し、胃の検査を受けた経験があるのは、15.3%となっている。胃の検査方法は「胃内視鏡検査」が57.0%、次いで「胃がんリスク層別化検査（ABC検査）」が6.3%となっている。
- ◎ その他の方法で胃がん検診又は胃の検査を受けた経験があるのは、13.5%となっている。胃がん検診又は胃の検査方法は「胃内視鏡検査」が28.8%、次いで「胃部エックス線検査」が12.7%となっている。
- ◎ 勤務先以外での受診機会としては「個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する胃がん検診」が最も高く16.5%、次いで「居住する区市町村が実施する胃がん検診」が16.2%となっている。

①-1 胃がん検診の勤務先での実施状況

n=4,254

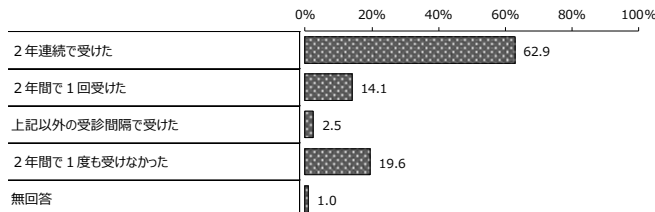


①-7 受診した胃がん検診の検査方法（複数回答）



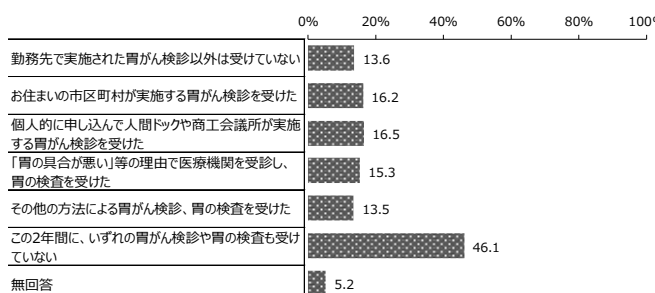
①-2 勤務先で実施された胃がん検診の受診状況

n=1,171



勤務先以外での胃がん検診の受診状況（複数回答）

n=4,254



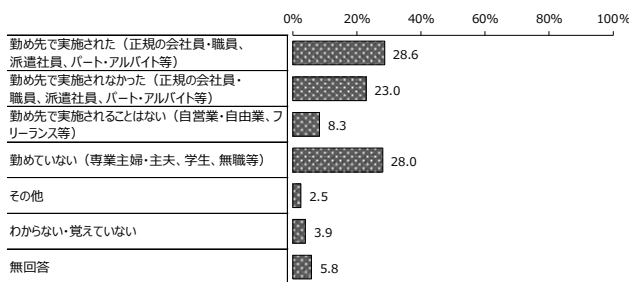
2 大腸がん検診

集計対象：40歳以上の男女

- ◎ 勤務先で大腸がん検診が実施された者の割合は、全体の28.6%となっている。勤務先で大腸がん検診が実施された場合、勤務先での大腸がん検診の受診経験があるのは、86.5%となっている。勤務先での大腸がん検診の検査方法は、「便潜血検査」が92.9%、次いで「大腸内視鏡検査」が4.6%となっている。
- ◎ 居住する区市町村が実施する大腸がん検診の受診経験があるのは、19.6%となっている。大腸がん検診の検査方法は「便潜血検査」が74.7%、次いで「大腸内視鏡検査」が5.3%となっている。
- ◎ 個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する大腸がん検診の受診経験があるのは、12.8%となっている。大腸がん検診の検査方法は「便潜血検査」が41.0%、次いで「大腸内視鏡検査」が19.3%となっている。
- ◎ 「便秘や腹痛、血便」等の理由で医療機関を受診し、大腸の検査を受けた経験があるのは、12.3%となっている。大腸の検査方法は「大腸内視鏡検査」が44.4%、次いで「便潜血検査」が13.9%となっている。
- ◎ その他の方法で大腸がん検診又は大腸の検査を受けた経験があるのは、11.1%となっている。大腸がん検診又は大腸の検査方法は「便潜血検査」が21.7%、次いで「大腸内視鏡検査」が17.6%となっている。
- ◎ 勤務先以外での受診機会としては「居住する区市町村が実施する大腸がん検診」が最も高く19.6%、次いで「個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する大腸がん検診」が12.8%となっている。

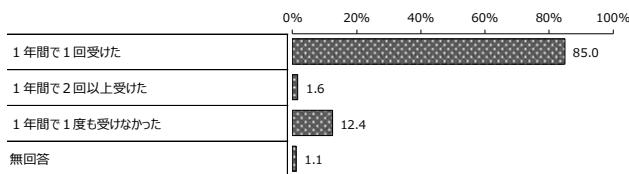
②-1 大腸がん検診の勤務先での実施状況

n=5,298



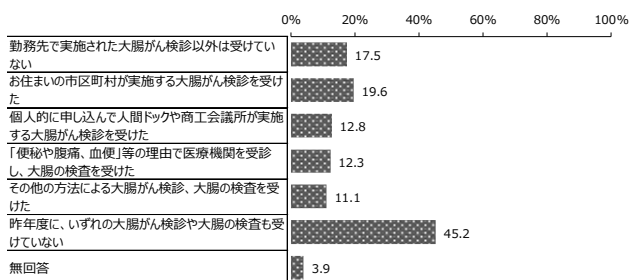
②-2 勤務先で実施された大腸がん検診の受診状況

n=1,516

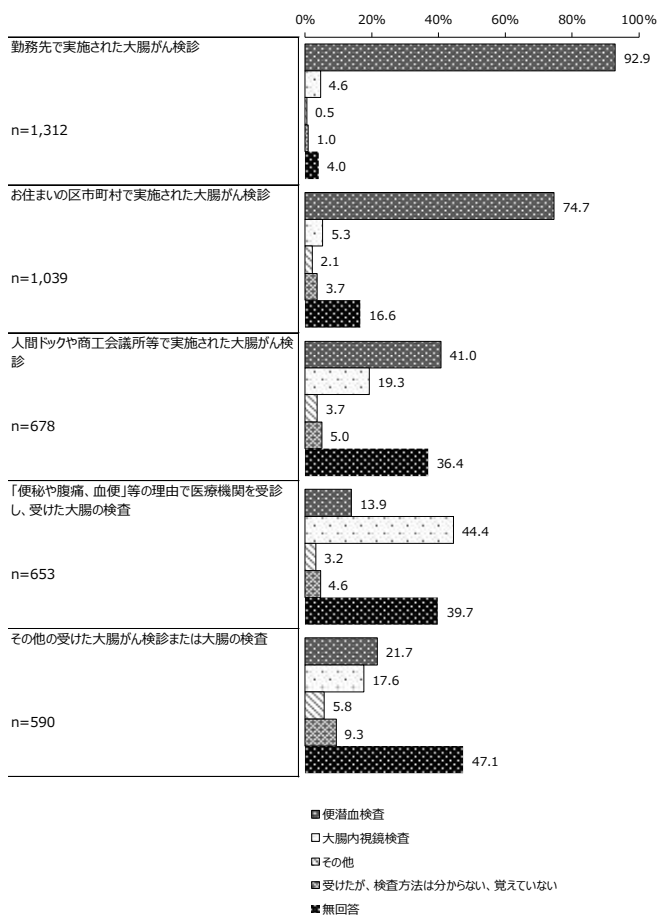


勤務先以外での大腸がん検診の受診状況（複数回答）

n=5,298



②-7 受診した大腸がん検診の検査方法（複数回答）



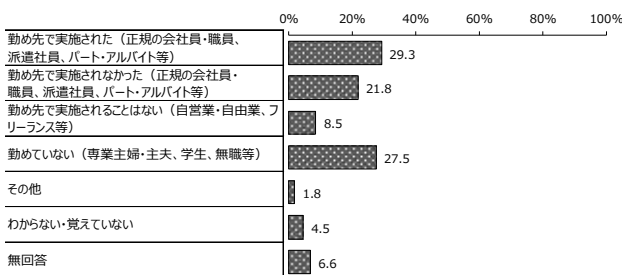
3 肺がん検診

集計対象：40歳以上の男女

- ◎ 勤務先で肺がん検診が実施された者の割合は、全体の29.3%となっている。勤務先で肺がん検診が実施された場合、勤務先での肺がん検診の受診経験があるのは、90.9%となっている。勤務先での肺がん検診の検査方法は、「胸部エックス線検査」が95.2%、次いで「胸部CT検査」が4.0%となっている。
- ◎ 居住する区市町村が実施する肺がん検診の受診経験があるのは、16.2%となっている。肺がん検診の検査方法は「胸部エックス線検査」が72.6%、次いで「胸部CT検査」が4.0%となっている。
- ◎ 個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する肺がん検診の受診経験があるのは、9.9%となっている。肺がん検診の検査方法は「胸部エックス線検査」が50.9%、次いで「胸部CT検査」が17.0%となっている。
- ◎ 「咳、痰、血痰、胸痛」等の理由で医療機関を受診し、肺の検査を受けた経験があるのは、7.4%となっている。肺の検査方法は「胸部エックス線検査」が40.5%、次いで「胸部CT検査」が17.2%となっている。
- ◎ その他の方法で肺がん検診又は肺の検査を受けた経験があるのは、9.6%となっている。肺がん検診又は肺の検査方法は「胸部エックス線検査」が31.7%、次いで「胸部CT検査」が6.9%となっている。
- ◎ 勤務先以外での受診機会としては「居住する区市町村が実施する肺がん検診」が最も高く16.2%、次いで「個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する肺がん検診」が9.9%となっている。

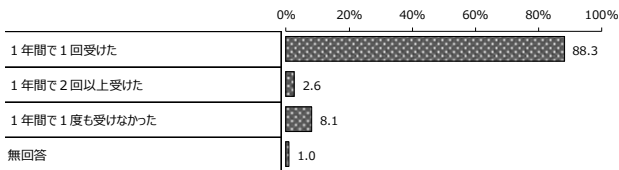
③-1 肺がん検診の勤務先での実施状況

n=5,298



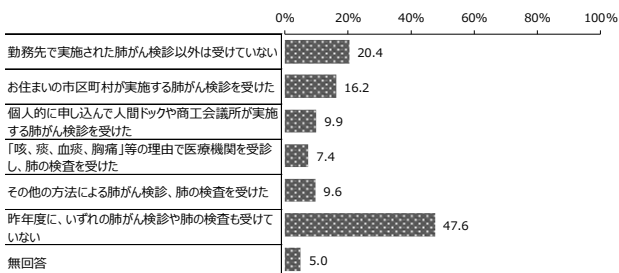
③-2 勤務先で実施された肺がん検診の受診状況

n=1,551

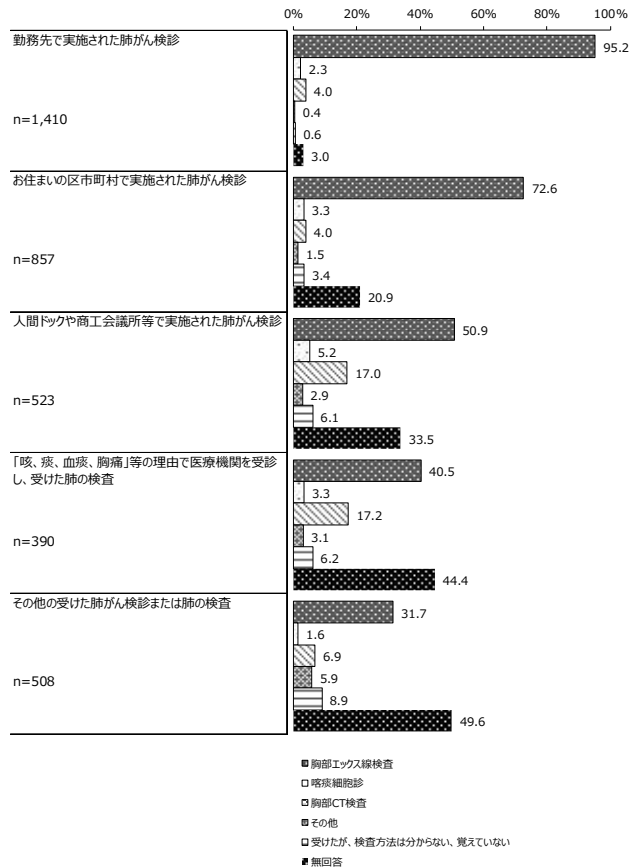


勤務先以外での肺がん検診の受診状況（複数回答）

n=5,298



③-7 受診した肺がん検診の検査方法（複数回答）



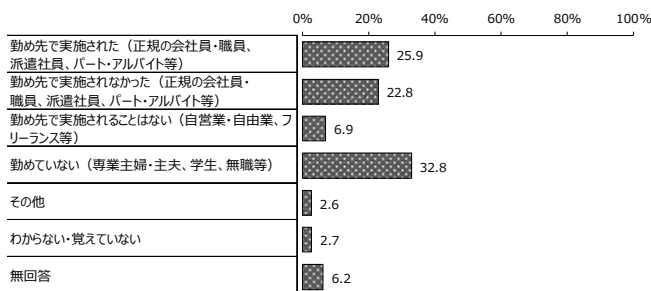
4 乳がん検診

集計対象：40歳以上の女性

- ◎ 勤務先で乳がん検診が実施された者の割合は、全体の25.9%となっている。勤務先で乳がん検診が実施された場合、勤務先での乳がん検診の受診経験があるのは、86.5%となっている。勤務先での乳がん検診の検査方法は、「マンモグラフィ検査」が75.0%、次いで「乳房超音波（エコー）検査」が59.3%となっている。
- ◎ 居住する区市町村が実施する乳がん検診の受診経験があるのは、27.5%となっている。乳がん検診の検査方法は「マンモグラフィ検査」が74.7%、次いで「視触診検査」が28.0%となっている。
- ◎ 個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する乳がん検診の受診経験があるのは、16.5%となっている。乳がん検診の検査方法は「マンモグラフィ検査」が41.4%、次いで「乳房超音波（エコー）検査」が37.3%となっている。
- ◎ 「乳房にしこりがある」等の理由で医療機関を受診し、乳房の検査を受けた経験があるのは、14.8%となっている。乳房の検査方法は「乳房超音波（エコー）検査」が52.4%、次いで「マンモグラフィ検査」が48.9%となっている。
- ◎ その他の方法で乳がん検診又は乳房の検査を受けた経験があるのは、13.4%となっている。乳がん検診又は乳房の検査方法は「マンモグラフィ検査」が28.6%、次いで「乳房超音波（エコー）検査」が25.4%となっている。
- ◎ 勤務先以外での受診機会としては「居住する区市町村が実施する乳がん検診」が最も高く27.5%、次いで「個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する乳がん検診」が16.5%となっている。

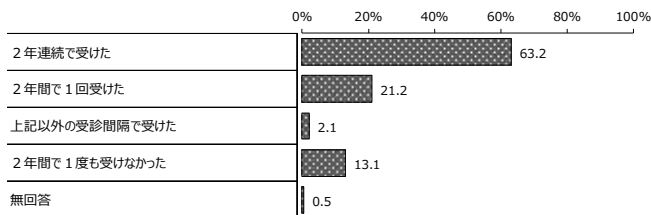
④-1 乳がん検診の勤務先での実施状況

n=2,535



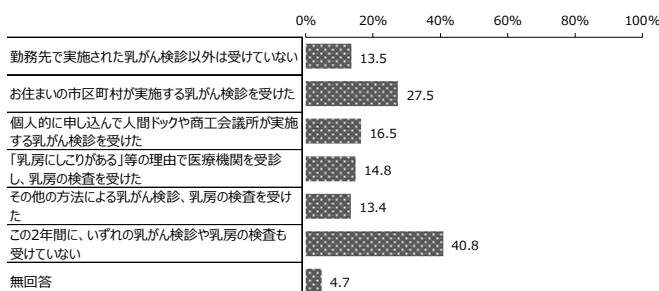
④-2 勤務先で実施された乳がん検診の受診状況

n=657



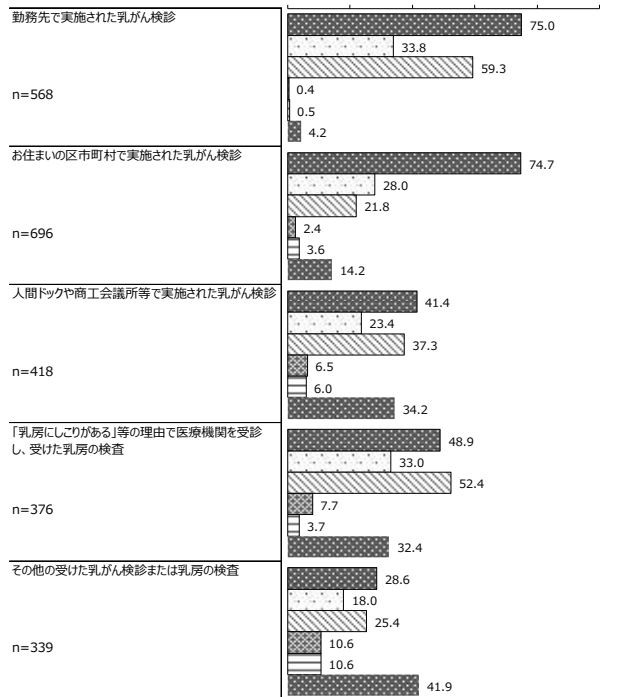
勤務先以外での乳がん検診の受診状況（複数回答）

n=2,535



④-7 受診した乳がん検診の検査方法（複数回答）

n=568



- マンモグラフィ検査
- 視触診検査
- ▨ 乳房超音波（エコー）検査
- その他
- 受けたが、検査方法は分からない、覚えていない
- 無回答

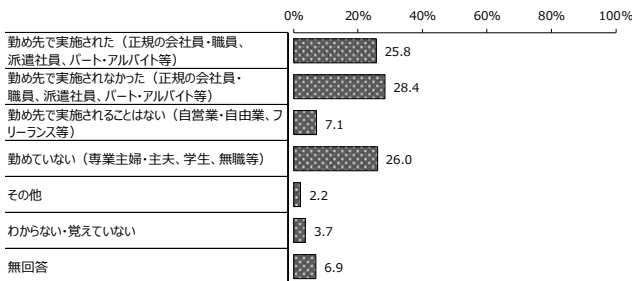
5 子宮頸がん検診

集計対象：20歳以上の女性

- ◎ 勤務先で子宮頸がん検診が実施された者の割合は、全体の25.8%となっている。勤務先で子宮頸がん検診が実施された場合、勤務先での子宮頸がん検診の受診経験があるのは、82.9%となっている。勤務先での子宮頸がん検診の検査方法は、「細胞診：医師による採取」が84.8%、次いで「超音波（エコー）検査」が26.0%となっている。
- ◎ 居住する区市町村が実施する子宮頸がん検診の受診経験があるのは、24.7%となっている。子宮頸がん検診の検査方法は「細胞診：医師による採取」が70.4%、次いで「超音波（エコー）検査」が17.3%となっている。
- ◎ 個人的に申し込んだ人間ドックや商工会議所等が実施する子宮頸がん検診の受診経験があるのは、12.9%となっている。子宮頸がん検診の検査方法は「細胞診：医師による採取」が46.1%、次いで「超音波（エコー）検査」が22.9%となっている。
- ◎ 「生理不順、不正出血」等の理由で医療機関を受診し、子宮頸部の検査を受けた経験があるのは、17.6%となっている。子宮頸部の検査方法は「細胞診：医師による採取」が52.3%、次いで「超音波（エコー）検査」が35.4%となっている。
- ◎ その他の方法で子宮頸がん検診又は子宮頸部の検査を受けた経験があるのは、12.3%となっている。子宮頸がん検診又は子宮頸部の検査方法は「細胞診：医師による採取」が40.2%、次いで「超音波（エコー）検査」が18.4%となっている。
- ◎ 勤務先以外での受診機会としては「居住する区市町村が実施する子宮頸がん検診」が最も高く24.7%、次いで「生理不順、不正出血」等の理由で医療機関を受診し、子宮頸部の検査を受けた」が17.6%となっている。

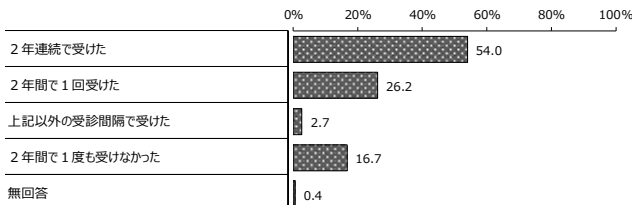
⑤-1 子宮頸がん検診の勤務先での実施状況

n=3,468



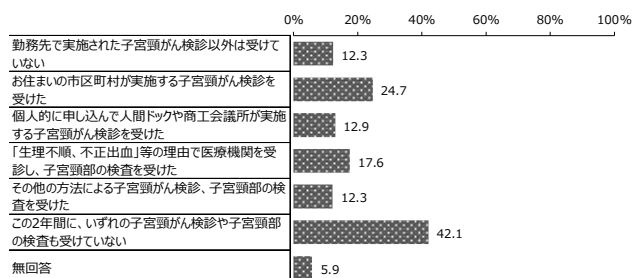
⑤-2 勤務先で実施された子宮頸がん検診の受診状況

n=894



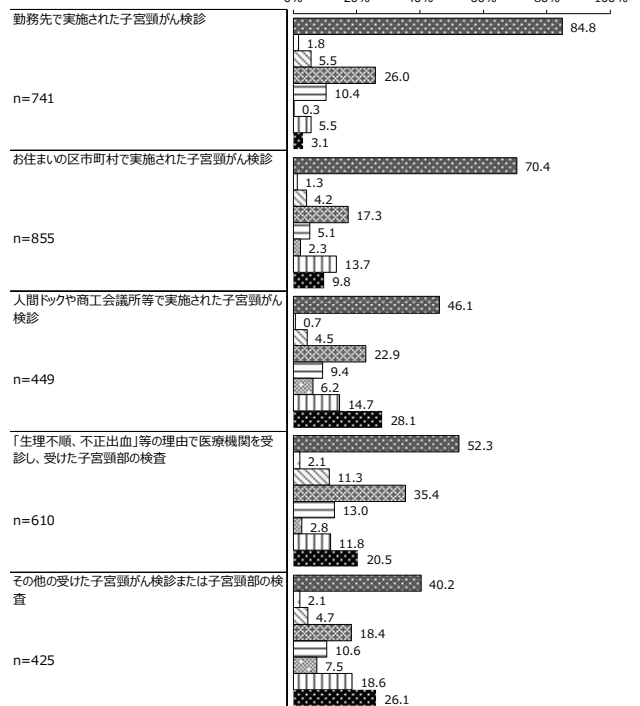
勤務先以外での子宮頸がん検診の受診状況（複数回答）

n=3,468



⑤-7 受診した子宮頸がん検診の検査方法（複数回答）

n=741



- 細胞診：医師による採取
- 細胞診：自己採取
- コルポスコピー
- 超音波（エコー）検査
- HPV検査
- その他
- 受けたが、検査方法は分からない、覚えていない
- 無回答

第2章 調査結果の要点

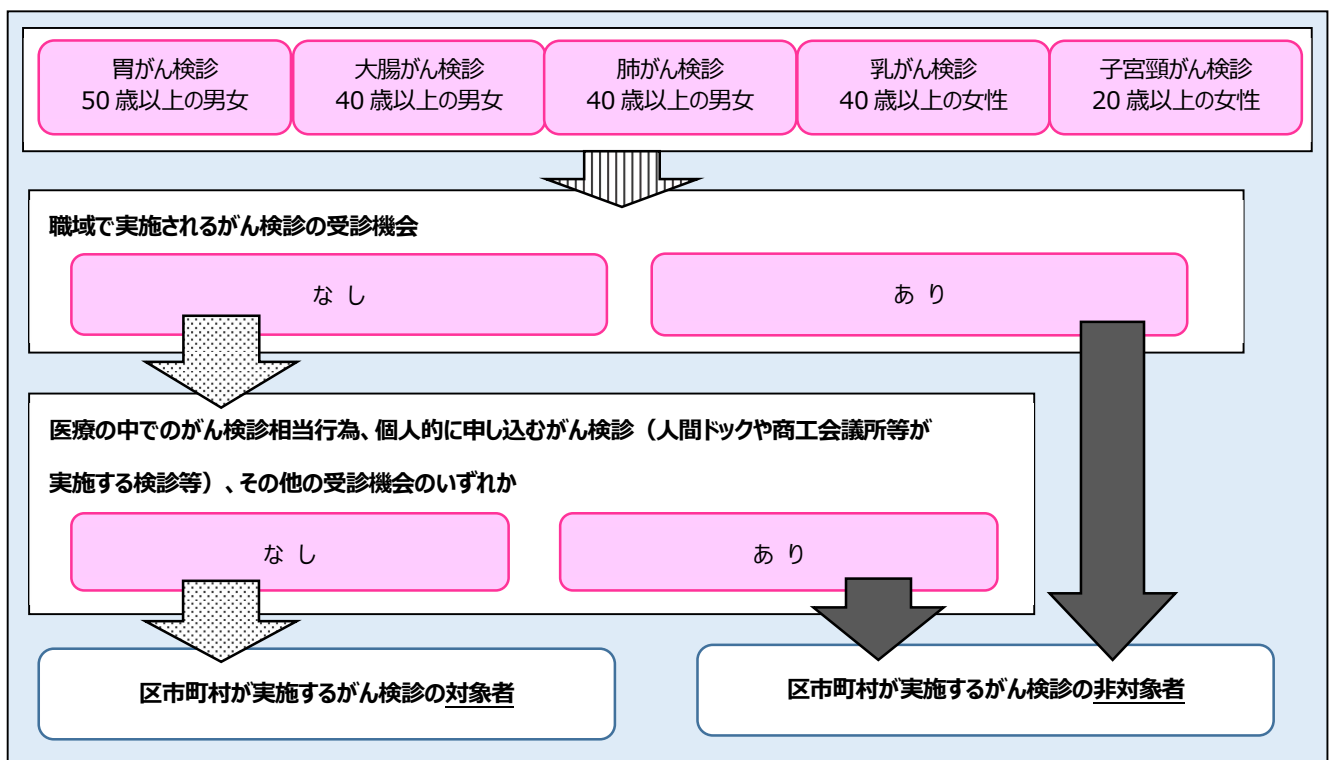
第1 がん検診の対象人口率

1 がん検診の対象人口率の考え方

区市町村が実施するがん検診は、職域（事業所及び健康保険組合）等でのがん検診の受診機会がない住民を主な対象者として想定している。

そのため、「国が推奨するがん検診」の対象者のうち、職域での受診機会がある者、医療の中で検診相当行為を受けた者、人間ドック等を個人的に申し込み受診した者及び事実上検診を受診できない者（入院・療養・妊娠中、出張等で長期不在又は当該がん検診の対象部位の全摘術歴等がある者）を対象外とし、残った者を区市町村が実施するがん検診の対象者とし、対象人口率を算出する。

都では、毎年度実施する「東京都がん検診精度管理評価事業」において、各区市町村の「国が推奨するがん検診」の対象者数に対象人口率を乗じた数を分母とし、区市町村が実施するがん検診の受診者数を分子として、区市町村が実施するがん検診の受診率を算出している。



※ ただし、各受診機会の有無にかかわらず、入院・療養・妊娠中の者、出張等で長期不在の者、又は当該がん検診の対象部位の全摘術歴等がある者など、検診が不要又は事実上不可能な者についても、非対象者とする。

2 今回調査での「区市町村が実施するがん検診の対象者」の考え方

「区市町村が実施するがん検診」の対象者・非対象者は、各がん検診について、「国が推奨するがん検診」の対象者のうち、以下の条件を満たしたものとする。

対象者	以下、a、bのいずれかに該当する者 a：①～⑤-1で「2」～「6」のいずれかを回答し、かつ①・④・⑤-4～6で「4」を回答した者 b：①～⑤-1で「2」～「6」のいずれかを回答し、かつ②・③-4～6で「3」を回答した者
非対象者	以下、a、b、cのいずれかに該当する者 a 職域での受診機会がある：①～⑤-1で「1」を回答 b 職域以外での受診機会がある：①・④・⑤-4～6で「1」「2」「3」のいずれかを回答 ②・③-4～6で「1」「2」のいずれかを回答 c 検診が不要・事実上不可能：①～③・⑤-9で「1」「2」「17（未受診理由が全摘術歴等の場合）」のいずれか回答 ④-9で「1」「2」「19（未受診理由が全摘術歴等の場合）」のいずれか回答

【質問内容】

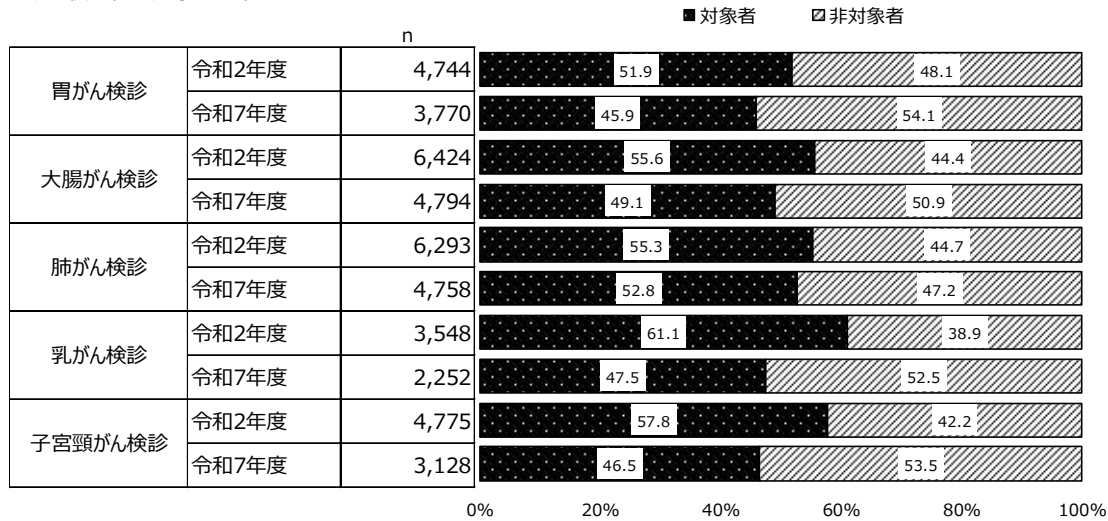
- ①～⑤-1：「1 勤め先で実施された」「2 勤め先で実施されなかった」「3 勤め先で実施されることはない」「4 勤めていない」「5 その他」「6 わからない・覚えていない」
- ①・④・⑤-4～6：「1 2年連続で受けた」「2 2年間で1回受けた」「3 選択肢1・2以外の受診間隔で受けた」「4 2年間で1度も受けなかった」
- ②・③-4～6：「1 1年間で1回受けた」「2 1年間で2回以上受けた」「3 1年間で1度も受けなかった」
- ①～③・⑤-9：「1 入院中・自宅療養中、妊娠中だったから」「2 長期赴任・留学等で不在だったから」「17 その他」
- ④-9：「1 入院中・自宅療養中、妊娠中だったから」「2 長期赴任・留学等で不在だったから」「19 その他」

注) 対象者、非対象者のいずれの条件にも該当しない場合は、集計結果において「不明」として扱った。

3 今回調査でのがん検診の対象人口率

今回の調査によって得られた各がん検診の対象人口率は、以下のようになっている。

<がん検診種別対象人口率>



がん検診の対象人口率は、前回調査と比較して、全がん種で低下した。がん検診の種別では、肺がん検診の対象人口率が最も高く（52.8%）、次いで大腸がん検診となっている（49.1%）。乳がん検診の対象人口率は47.5%と前回調査から約13.6ポイント減少している。

表 1-1 東京都の対象人口率（区部・市町村部別）

		胃がん検診	大腸がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診
東京都	回答者数	4,254	5,298	5,298	2,535	3,468
	不明	484	504	540	283	340
	n	3,770	4,794	4,758	2,252	3,128
	対象者数	1,730	2,355	2,510	1,070	1,455
	対象人口率	45.9%	49.1%	52.8%	47.5%	46.5%
	前回対象人口率	51.9%	55.6%	55.3%	61.1%	57.8%
区部	回答者数	2,650	3,357	3,357	1,584	2,273
	不明	299	319	326	174	214
	n	2,351	3,038	3,031	1,410	2,059
	対象者数	1,049	1,470	1,584	640	924
	対象人口率	44.6%	48.4%	52.3%	45.4%	44.9%
	前回対象人口率	52.2%	55.3%	55.1%	59.5%	56.7%
市町村部 (島しょ部除く)	回答者数	1,592	1,929	1,929	944	1,185
	不明	182	182	210	106	123
	n	1,410	1,747	1,719	838	1,062
	対象者数	675	878	920	426	525
	対象人口率	47.9%	50.3%	53.5%	50.8%	49.4%
	前回対象人口率	51.3%	56.2%	55.6%	64.1%	59.9%

注) 居住地に無回答・その他が若干数あったため区部/市町村部の計は東京都の計と合致しない。

表 1-2 東京都の対象人口率の推移

	胃がん検診	大腸がん検診	肺がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診 ※
平成12年度調査	67.3%	73.9%	73.6%	82.7%	79.6%
平成17年度調査	61.4%	69.0%	61.5%	74.1%	68.7%
平成22年度調査	59.6%	64.0%	65.9%	72.6%	64.8%
平成27年度調査	57.5%	61.3%	64.8%	65.5%	64.2%
令和2年度調査	51.9%	55.6%	55.3%	61.1%	57.8%
令和7年度調査	45.9%	49.1%	52.8%	47.5%	46.5%

※ 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正について」（平成 25 年 3 月 28 日付健発 0328 第 4 号厚生労働省健康局長通知）により「子宮がん検診」から「子宮頸がん検診」に変更された。

第2 がん検診の受診率

1 今回調査での受診率の考え方

各がん検診について、下記の年齢及び性別に該当する回答者を受診対象者とし、受診対象者のうち回答で下記の条件を満たした者を受診者と未受診者に振り分け、受診者及び未受診者のうち受診者の割合を本調査における各がん検診の受診率と定義する。

種別	対象年齢・性別	条 件	
胃がん検診	50歳以上の男女	受診者	この2年間（令和5年度及び令和6年度）につき、①-1の「1」及び①-2の「1」～「3」のいずれかに回答、又は①-3～6の「1」～「3」のいずれかを回答した者
		未受診者	この2年間（令和5年度及び令和6年度）につき、①-2～6の「4」に回答した者
大腸がん検診	40歳以上の男女	受診者	昨年度（令和6年度）につき、②-1の「1」及び②-2の「1」「2」のいずれかに回答、又は②-3～6の「1」「2」のいずれかを回答した者
		未受診者	昨年度（令和6年度）につき、②-2～6の「3」に回答した者
肺がん検診	40歳以上の男女	受診者	昨年度（令和6年度）につき、③-1の「1」及び③-2の「1」「2」のいずれかに回答、又は③-3～6の「1」「2」のいずれかを回答した者
		未受診者	昨年度（令和6年度）につき、③-2～6の「3」に回答した者
乳がん検診	40歳以上の女性	受診者	この2年間（令和5年度及び令和6年度）につき、④-1の「1」及び④-2の「1」～「3」のいずれかに回答、又は④-3～6の「1」～「3」のいずれかを回答した者
		未受診者	この2年間（令和5年度及び令和6年度）につき、④-2～6の「4」に回答した者
子宮頸がん検診	20歳以上の女性	受診者	この2年間（令和5年度及び令和6年度）につき、⑤-1の「1」及び⑤-2の「1」～「3」のいずれかに回答、又は⑤-3～6の「1」～「3」のいずれかを回答した者
		未受診者	この2年間（令和5年度及び令和6年度）につき、⑤-2～6の「4」に回答した者

[質問内容]

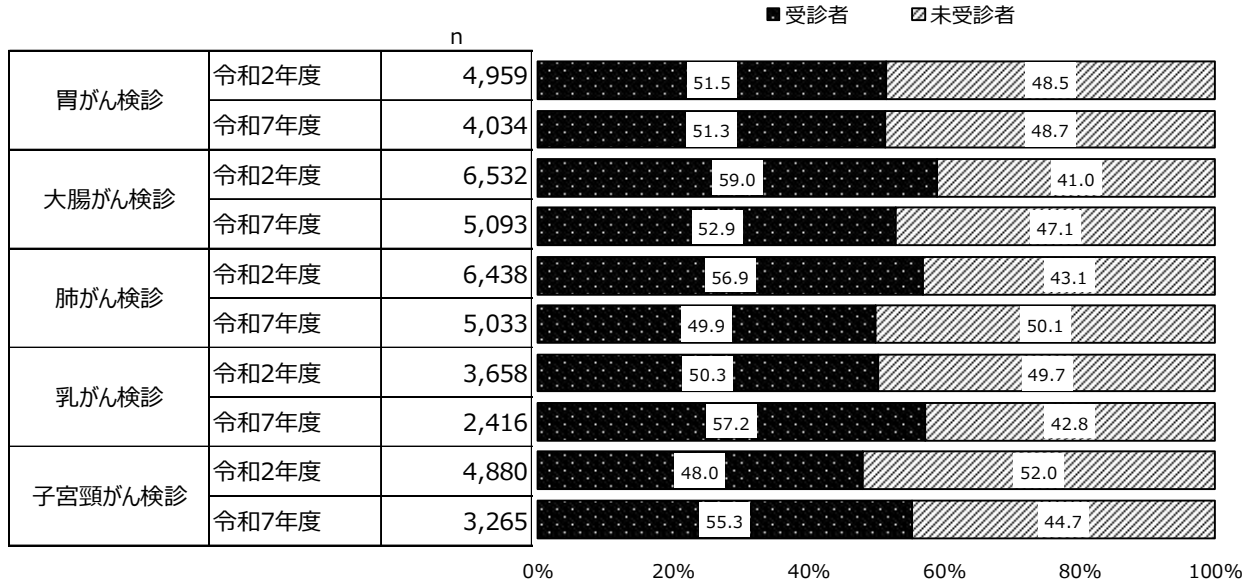
- ①～⑤-1：「1 勤め先で実施された」「2 勤め先で実施されなかった」「3 勤め先で実施されることはない」「4 勤めていない」「5 その他」「6 わからない・覚えていない」
- ①・④・⑤-2～6：「1 2年連続で受けた」「2 2年間で1回受けた」「3 選択肢1・2以外の受診間隔で受けた」「4 2年間で1度も受けなかった」
- ②・③-2～6：「1 1年間で1回受けた」「2 1年間で2回以上受けた」「3 1年間で1度も受けなかった」

注) 受診者、未受診者のいずれの条件にも該当しない場合は、集計結果において「不明」として扱った。

2 今回調査でのがん検診の受診率

今回の調査によって得られた各がん検診の受診率は、以下のようになっている。

<がん検診種別受診率>



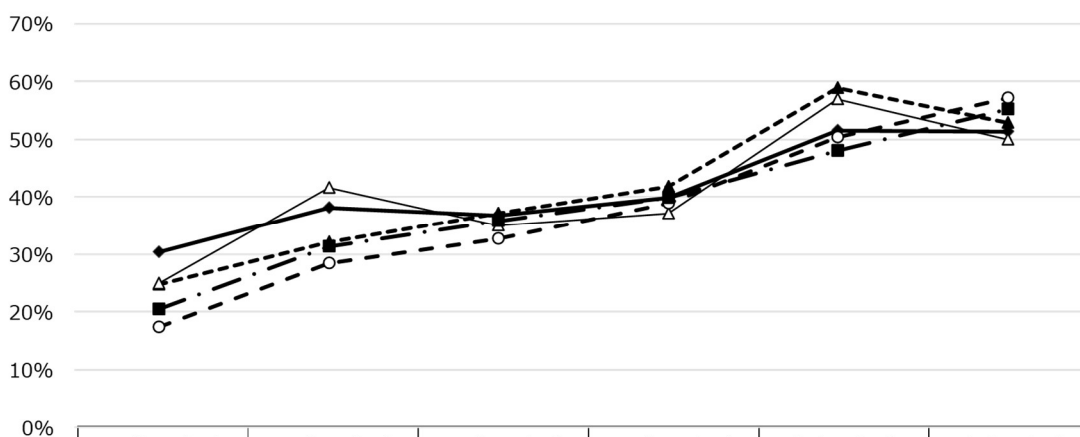
がん検診の受診率は、前回調査と比較して、胃がん検診は横ばい、大腸がん検診、肺がん検診で低下し、乳がん検診と子宮頸がん検診が上昇した。がん検診の種別では、乳がん検診の受診率が最も高く（57.2%）、次いで子宮頸がん検診となっている（55.3%）。また、肺がん検診の受診率が最も低い（49.9%）。

[参考] 男女別・年代別の検診受診率

(単位：%)

がん種	区分	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	性別全体
胃がん検診	男性	/	/	/	62.0	61.5	46.4	32.2	54.4
	女性	/	/	/	60.8	55.2	35.4	21.7	47.7
	年代全体	/	/	/	61.4	58.7	41.6	26.8	51.3
大腸がん検診	男性	/	/	50.6	56.0	57.6	51.6	42.5	53.2
	女性	/	/	51.3	58.5	58.7	53.1	29.4	52.7
	年代全体	/	/	51.0	57.2	58.1	52.2	35.9	52.9
肺がん検診	男性	/	/	41.7	54.7	61.6	49.4	40.2	51.6
	女性	/	/	43.2	55.9	53.6	47.5	28.4	48.0
	年代全体	/	/	42.5	55.2	58.1	48.5	34.2	49.9
乳がん検診	女性	/	/	78.5	70.8	58.4	32.6	14.7	57.2
子宮頸がん検診	女性	54.9	75.0	75.4	62.3	46.3	24.0	9.5	55.3

[参考] 受診率の推移



	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度	令和7年度
胃がん検診	30.3%	38.1%	36.7%	39.8%	51.5%	51.3%
大腸がん検診	24.8%	32.1%	37.2%	41.9%	59.0%	52.9%
肺がん検診	24.9%	41.7%	35.1%	37.2%	56.9%	49.9%
乳がん検診	17.3%	28.5%	32.8%	39.0%	50.3%	57.2%
子宮頸がん検診	20.4%	31.4%	35.9%	39.8%	48.0%	55.3%

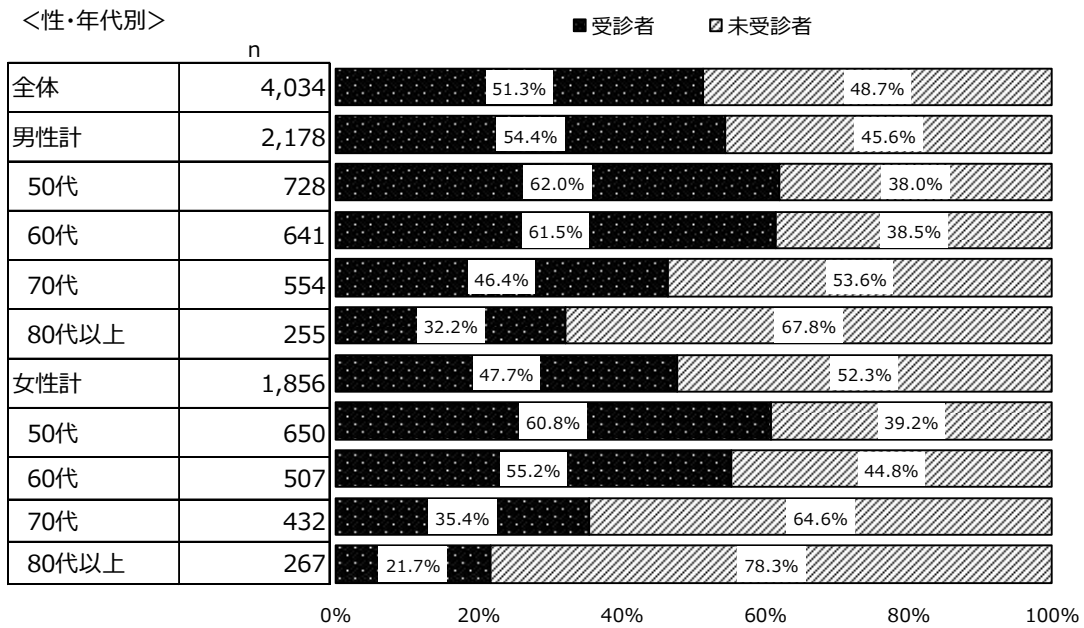
※ 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正について」(平成 28 年 2 月 4 日付健発 0204 第 13 号厚生労働省健康局長通知) により胃がん検診の対象者及び受診間隔が「40 歳以上」「年 1 回」から「50 歳以上」「2 年に 1 回」に変更されたため、前々回までの調査と前回以降の調査では受診者の条件が異なる。

【コラム】 がん検診の利益と不利益

がん検診には利益（死亡率減少効果など）と不利益（例えば胃部エックス線検査ならバリウム誤嚥や被爆など）があります。高齢者の利益と不利益のバランスは個人差が大きいため、医師等と相談して受診の有無を決定することになります。国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」では、特に受診を推奨する者を 69 歳以下とすることが定められています（ただし、70 歳以上の方についても、受診機会を提供することが前提です）。

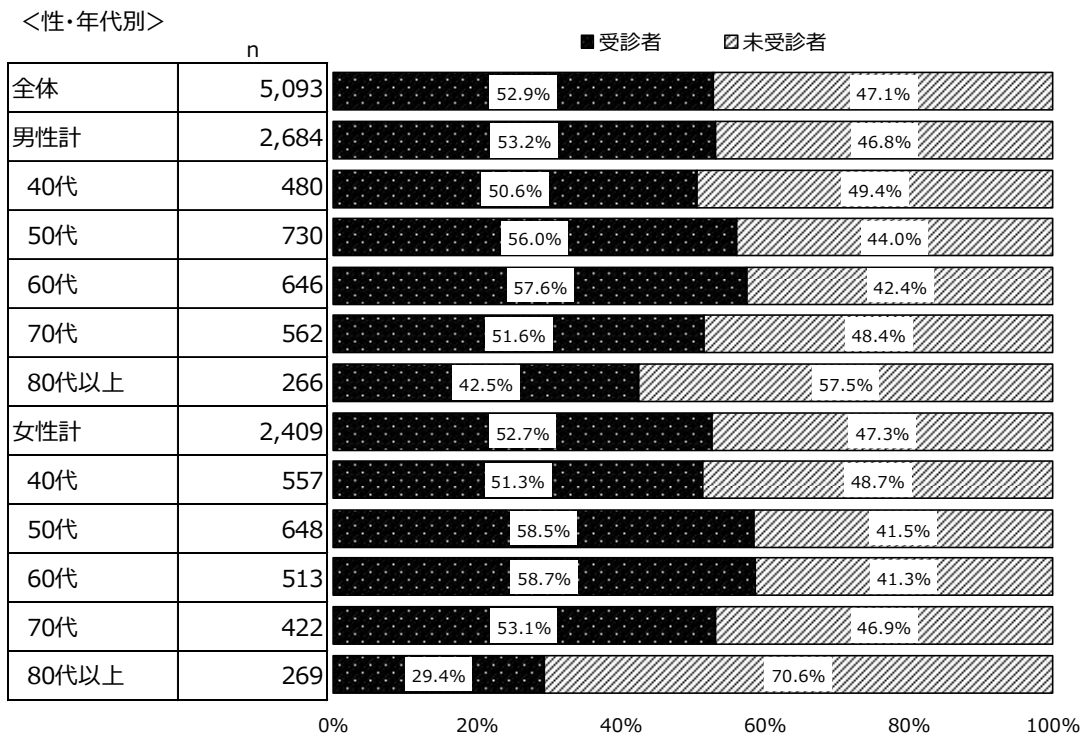
3 各がん検診の受診率

(1) 胃がん検診



胃がん検診の受診率を性・年代別にみると、50代男女と60代男性は60%に達しているが、60代女性は55.2%と未達である。

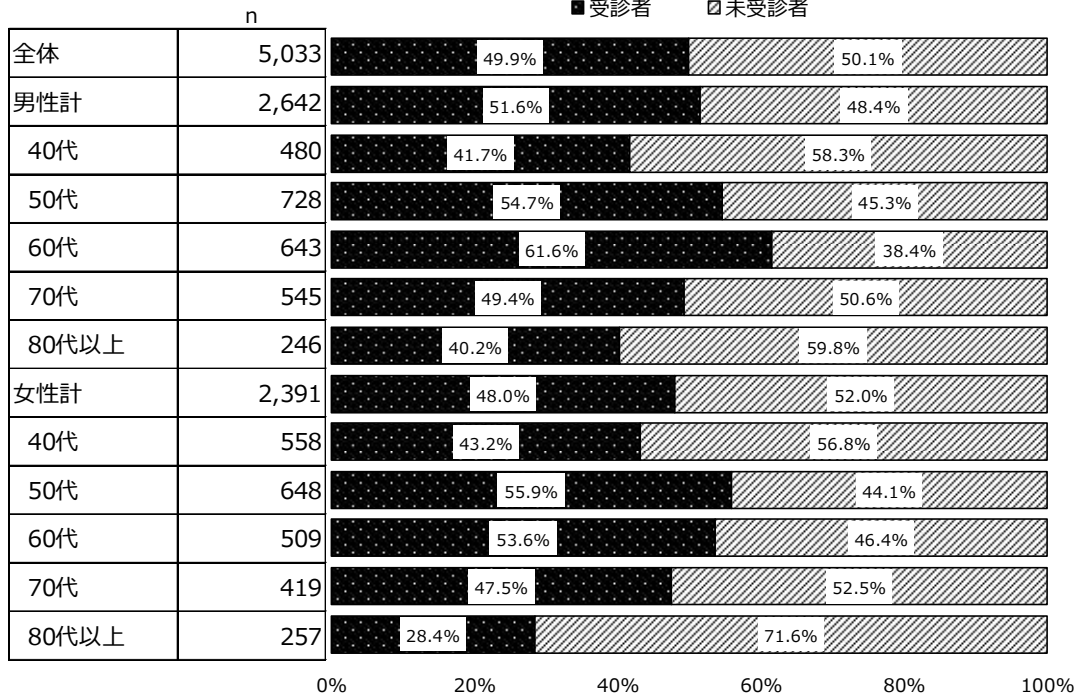
(2) 大腸がん検診



大腸がん検診の受診率を年代別にみると、男女ともにいずれの年代でも60%に達していないが、40代は50代・60代に比べて受診率が低い。

(3) 肺がん検診

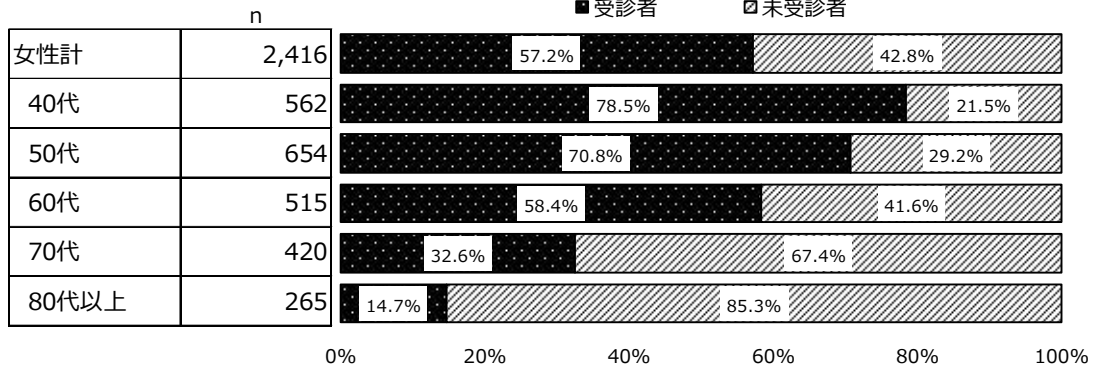
<性・年代別>



肺がん検診の受診率を性・年代別にみると、60代男性は60%に達しているが、その他の年代はいずれも未達で、特に40代の受診率が低い。

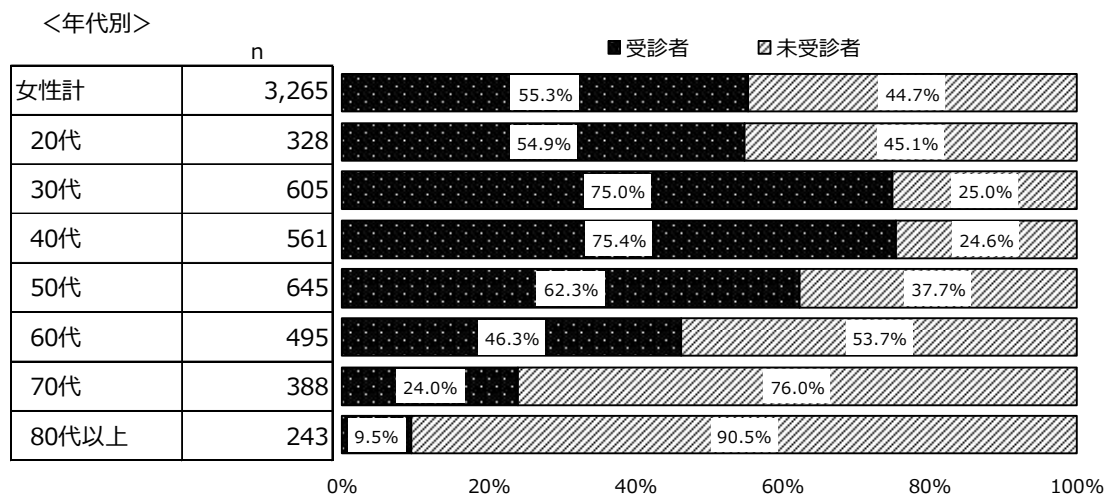
(4) 乳がん検診

<年代別>



乳がん検診の受診率を年代別にみると、40代において78.5%と最も高く、50代でも60%を大きく上回っているが、60代は60%に未達である。

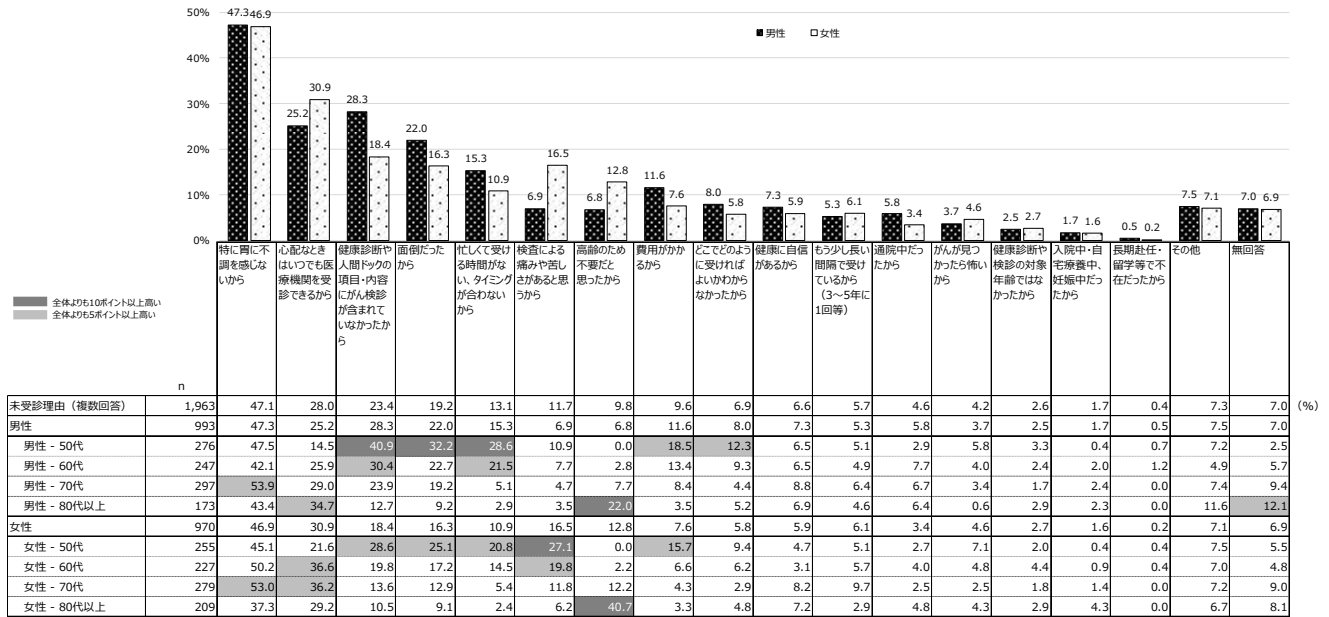
(5) 子宮頸がん検診



子宮頸がん検診の受診率を年代別にみると、30代が75.0%、40代が75.4%、50代が62.3%と60%を上回っているが、20代と60代では60%に達していない。

第3 がん検診を受診しなかった理由（性／年代別）

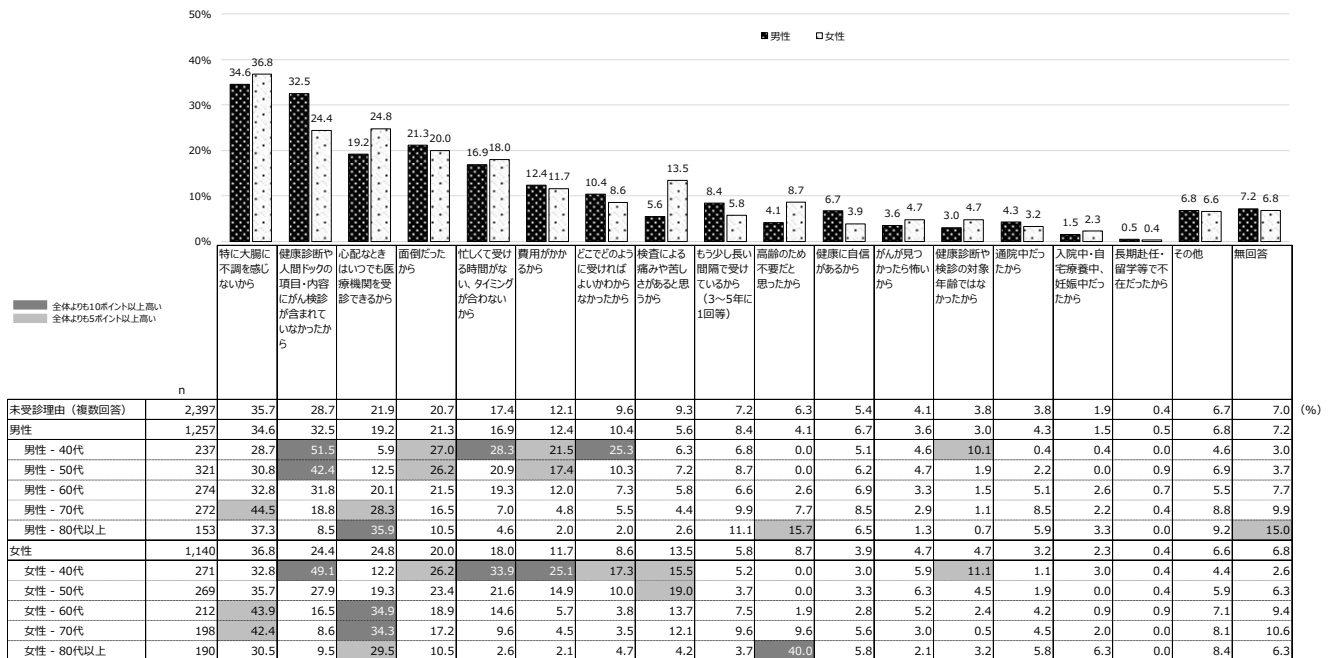
1 胃がん検診



胃がん検診の未受診理由で最も多かったのは、男女ともに「特に関に不調を感じないから」だった。

受診率が60%に達していない60代女性で最も多い理由は「特に関に不調を感じないから」、2番目に多い理由は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」であった。

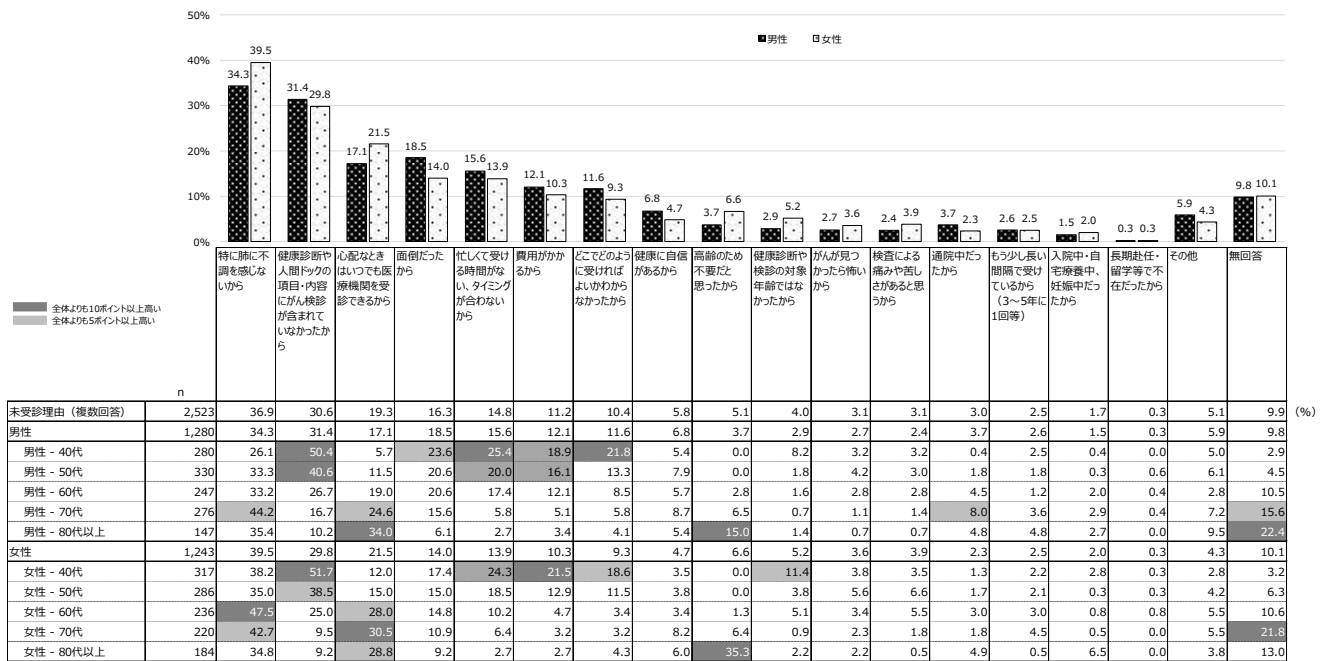
2 大腸がん検診



大腸がん検診の未受診理由で最も多かったのは、男女ともに「特に関に不調を感じないから」であった。

受診率が低い40代で、男女とも最も多い理由が「健康診断や人間ドックの項目・内容にがん検診が含まれていなかったから」であり、男性は「特に関に不調を感じないから」、女性は「忙しくて受ける時間がない、タイミングが合わないから」が2番目に多かった。

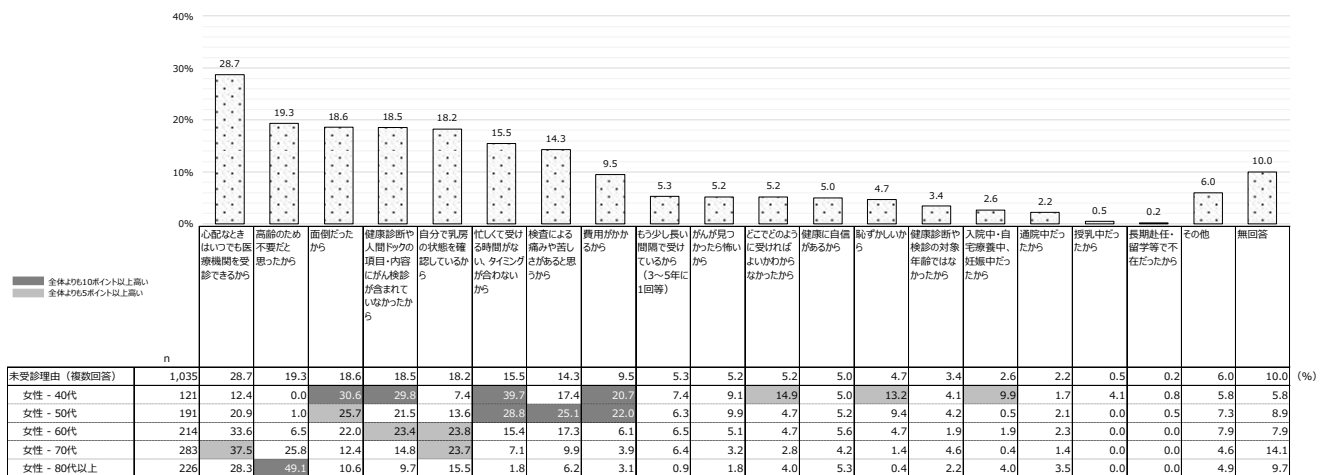
3 肺がん検診



肺がん検診の未受診理由で最も多かったのは、男女ともに「特に肺に不調を感じないから」であった。

受診率が低い40代で、男女とも最も多い理由が「健康診断や人間ドックの項目・内容にがん検診が含まれていなかったから」であり、2番目に多かった理由は「特に肺に不調を感じないから」であった。

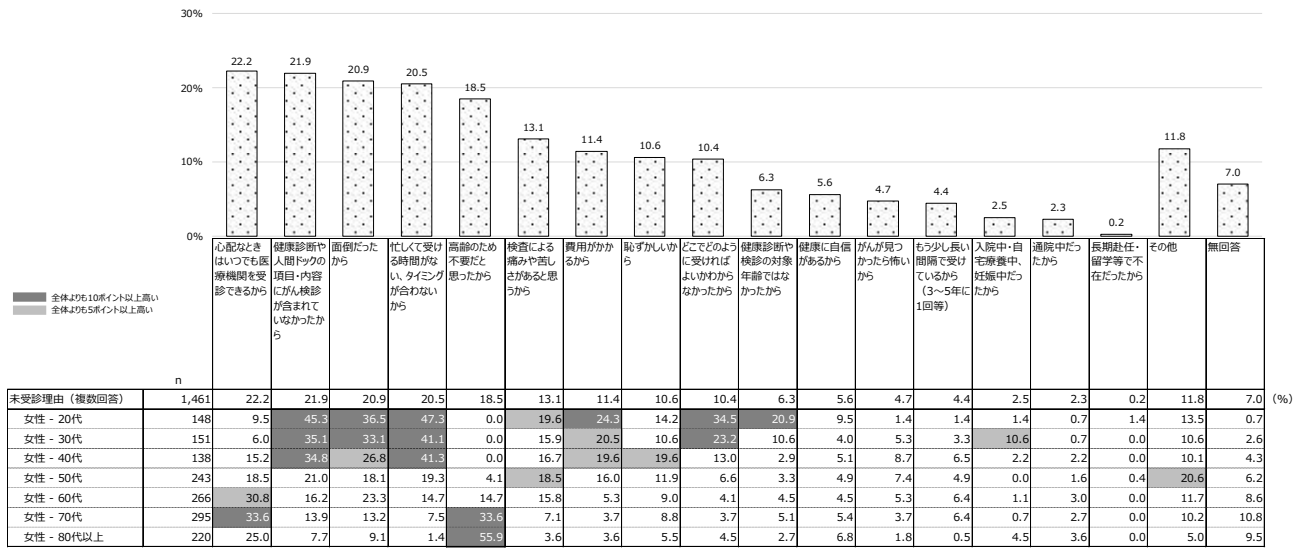
4 乳がん検診



乳がん検診の未受診理由で最も多かったのは、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」であった。

受診率が60%に達していない60代で、最も多い理由は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」で、2番目に多かった理由は「自分で乳房の状態を確認しているから」であった。

5 子宮頸がん検診



子宮頸がん検診の未受診理由で最も多かったのは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」であった。

受診率が60%に達していない年代のうち、20代は「忙しくて受ける時間がない、タイミングが合わないから」が最も多く、その他の年代に比べて「面倒だったから」「どこでどのように受ければよいかわからなかったから」等の理由が多かった。また、60代は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が最も多かった。